

市教育委員会課長が学校向けに発行している「心姿創全」という便りがあります。6月30日号は、みんなで共有したい内容だったので、紹介させていただきます。  
「不登校」や「学ぶ力」等について「あやばに学級通級励会」によせて記されたものらしいです。ぜひ子供たちとも話題にして語り合ってみてはいかがでしょうか。



※ ↓ pdf コピーの為、印刷不明瞭です。  
申し訳ありません

### 1 「あやばに学級」とは

不登校の児童生徒に対し、自立の心を高め社会性を身につけさせるための指導援助を行うために開設された教室です。

### 2 入級対象は

石垣市内の小中学生で、不安などの情緒的混乱による不登校児童生徒です。

### 3 「あやばに」命名について

八重山を代表する歌に「鶯ぬ鳥節」があります。鶯が大きなアコウの木に雛を育て、元旦の朝、東の空に向かって飛び立つ様を歌っております。その歌詞の中に「綾羽ば 生らしょうり ぴいる羽ば 産だしょうり」というくだりがあります。「綾羽(あやばに)」とは、美しい羽という意味ですが、雛が大きく成長し立派な鶯として飛び立って欲しいという願いと祈りを子ども達に託し「あやばに」と命名されました。【あやばに学級HPより引用】

学校教育課長だより第9号

令和3年6月30日(水)



# 心姿創全



学校教育課長  
前三盛 教

## 何のために勉強するの？

令和3年度石垣市適応指導教室「あやばに学級」通級励会によせて



去った、6月23日は、戦後76年目の沖縄県「慰霊の日」で、各地で戦没者追悼式等が行われました。私も正午のサイレンに合わせて、戦没者の御霊に祈り、世界の平和を願いました。沖縄全戦没者追悼式では、宮古島市立西部中2年の上原春香さんが、自作の詩「みろく世の唄」を朗読しました。春香さんは「赤ちゃんが大きな声で泣き、それを笑顔であやせる今は、当たり前じゃない」と気づいたと述べています。沖縄戦では、避難先のカマの中で、敵に見つかるからと泣いている赤ちゃんの口を押さえたり、殺せと命令されたりしたそうです。

午後からは、「あゝひめゆりの塔」(1968年)がテレビで放映されていました。沖縄県立第一高等女学校、沖縄師範学校女子部の生徒(13~19歳)が看護要員として戦争の真ただ中に動員された話です。もちろん学校に通えず学ぶことができなかったのです。

皆さんは、あやばに学級で「平和」について学びましたね。どういう気持ちになりましたか。どういう考えを持ちましたか。自分なりにいいですので、自分の考えを持ち、伝えることができましたか？

赤ちゃんが、大声泣けること、学校に通えること、家族と暮らせること、友達と遊べること、ごはんが食べれること、住む場所があること、歌が歌えること、今は当たり前ですけど、戦時中がこの当たり前ができなかったのですね。

皆さん、自分の心で感じて、自分の頭で考える。この「感じること、考えることが学ぶこと」です。そして、「自分の感じたこと、考えを持ったことが学んだ力」です。そして、それぞれ一人一人、感じたことや考えたことは違います。みんなの想いや考えを聞いて、自分の考えを深めることが学び合いです。ぜひ、そのことを大切に、あやばに学級で学んでいって欲しいと思います。

さて、次は、「学校」について考えてみます。皆さん、学校は何のためにあると思いますか？勉強は、なぜしますか？今、学校に通えない児童生徒、通わない児童生徒が増えています。理由はもちろん人それぞれです。学校の雰囲気がいや、友達とうまくいかない、先生がこわい、勉強が苦手、自由にできない、学習スピードに追いつけない等いろいろあると思います。皆さんは、まさに今、あやばに学級に通っているわけですから、「学校」のことについて、いろいろ考えたり、悩んだりしていることと思います。

私は、教育委員会で働いていますので、私自身も「学校は何のためにあるのか」「勉強は、なぜするのか」「学校に通えない子どもたちが増えているのはどうしてか」等、よく考えます。

学校は、もちろん、皆さんのためにあります。どのような特徴や特性

子どもたちであっても、一人一人、みんなが楽しく学び成長することができるためにあります。石垣市教育委員会では、今「勇気づけの教育」といって一人一人の特性を認め、励まし、勇気づける教育を推進しています。学校は、児童生徒一人一人のよさを認め、安心して過ごすことができなければなりません。学校は、友達と認め合い仲良く過ごすことができ、楽しく勉強しながら自分の力を伸ばす所です。石垣市教育委員会は、今そんな学校づくりを進めています。

しかし、現状としては、楽しく学べている児童生徒もいますが、そうでない児童生徒もいます。どうしてでしょう。私は、学校の課題は「一斉授業、一斉指導にあると考えています。「みんな同じことを、同じペースでやって、同じようなやり方で行っている」ことだと思います。残念ですけど、児童生徒の心や体の状況、興味関心、学びの状況は一人一人違うけれど、授業や学校生活の中で、一人一人にじっくり対応していくのは難しいのが現状があります。

学校の今のシステムや学校のつくりは、一斉授業、一斉指導が前提でつくられており、それを変えていくには、教師をはじめ、多くの大人の考え方を換え、学校を見直さなければなりません。大きな予算やたくさん先生も必要となるでしょう。今すぐには難しいのが現状です。

そのような中でも、今、学校は多様性を大事にし、一人一人の子どもたちに向き合っていくと取り組んでいます。そのことは、このあやばに学級通級の皆さんも保護者の皆さんも理解していただきたいと思っています。

さて、次に「どうして勉強するのか」について考えてみましょう。勉強する意味は人によって、また、時と場合によって、それぞれだとは思いますが、苦野一徳先生(哲学者・教育学者)は、「人は、自分を自由にしてくれる力を身につけるために勉強をしている」と言っています。人は誰もが、「生きたいように生きたい、自由に生きたい」と思っています。皆さん、将来、自分の思ったような行動ができる自由な姿を想像して下さい。実は、自由に生きるためには、力があるのです。

その力とは、読み書き計算などの基礎的な力、スポーツ選手になりたいのであれば、そのための力、学者になりたいのなら膨大な知識、世界で活躍するビジネスマンになりたいのなら、外国語や世界についての教養がいるでしょう。つまり、学ぶことで多くの力がつくのです。学校で学んだことが何の役に立つの。社会に出て何の役に立たないじゃないという意見もたくさんあります。しかし、社会に必要な力の大半は、学校で学んでいるのも本当のことです。

人は、学んだことの多くを忘れていきます。だからこそ、学校で学ぶことは、すぐ忘れるような知識を詰め込むことではなく、「学ぶ力」を身につけることだと思います。そこで、最初に話になりますが、「学ぶとは、感じること、考へること、自分の考えを伝え深めることです。」、皆さん、学校でもあやばに学級でもどこにいても、受け身では学ぶ力とは言えません。このあやばに学級で「自分で考えて、行動する力＝学ぶ力」を身につけて下さい。

